

令和5年度

苅田町 SDGs 子ども議会 会議録

苅田町

令和6年2月4日

令和5年度「苅田町 SDGs 子ども議会」会議録 目次

議事日程	1
出席議員	1
説明のため出席した人	1
苅田町議会から出席した人	2
提言内容一覧	2
開会	3
町長あいさつ	3
町議会議長あいさつ	3
提言	4
議事進行【森山議長】	
苅田小学校	4
馬場小学校	6
南原小学校	8
苅田中学校	11
議事進行【渡邊議長】	
与原小学校	14
片島小学校	16
白川小学校	18
新津中学校	21
教育長講評	23
閉会	24

令和5年度「苅田町 SDGs 子ども議会」

議事日程

令和6年2月4日(日曜日)午前9時30分開会

日程1 町長あいさつ

日程2 町議会議長あいさつ

日程3 一般質問 子ども議員

日程4 教育長講評

* 議事進行 前半:新津中学校 森山議員 後半:苅田中学校 渡邊議員

出席議員(32名)

苅田小学校 6年 石田 和花 議員
苅田小学校 6年 渡慶次 珠莉 議員
苅田小学校 6年 草刈 風輝 議員
苅田小学校 6年 犬塚 清純 議員
馬場小学校 6年 藤原 宙奈 議員
馬場小学校 6年 大倉 優藍 議員
馬場小学校 6年 緒方 琉偉 議員
馬場小学校 6年 高橋 直生 議員
馬場小学校 6年 峠本 剣士郎 議員
南原小学校 6年 大堀 琴鈴 議員
南原小学校 6年 岡本 帆花 議員
南原小学校 6年 岡田 愛叶 議員
南原小学校 6年 木谷 朝陽 議員
与原小学校 6年 柿本 侑祐 議員
与原小学校 6年 石田 華子 議員
与原小学校 6年 飯塚 比菜 議員
与原小学校 6年 伊尻 梨依紗 議員
片島小学校 6年 秋永 知美 議員
片島小学校 6年 磯谷 蘭真 議員
片島小学校 6年 河野 惣太 議員
片島小学校 6年 越智 恵 議員
白川小学校 6年 江村 翔太郎 議員
白川小学校 6年 岸川 寧々 議員
白川小学校 6年 佐々木 優里 議員
白川小学校 6年 古木 奏愛 議員
苅田中学校 2年 渡邊 輝 議員
苅田中学校 2年 吉村 陽昇 議員
苅田中学校 2年 前田 都羽 議員
新津中学校 2年 杉田 夏望 議員
新津中学校 2年 中村 明依 議員
新津中学校 2年 石川 愛星 議員
新津中学校 2年 森山 匠 議員

説明のため出席した人

遠田 孝一 町長

城野 和幸 副町長

井上 三津子 教育長

隅田 衡輝 企画課政策監 兼 課長

本丸 尚禎 総務課長

藤原 昌彰 財政課長
 吉永 康彦 学校教育課長
 梶田 純子 学校教育課主幹
 宮本 敦夫 企画課デジタル推進室長
 原田 敏子 企画課副課長
 大森 敏生 企画課企画推進担当係長

苅田町議会から出席した人

沖永 義樹町議会議長
 梶谷 忠明副議長
 角崎 明美 議員
 森 琢磨 議員
 福山 直樹 議員
 田渕 朗 議員
 末石 伸二 議員
 花見 文敏 議員
 村上 智宣 議員
 岩谷 潔 議員
 尾形 均 議員
 白石 学 議員
 友田 敬而 議員
 小山 信美 議員
 武内 幸次郎 議員
 坂本 東二郎 議員

提言内容一覧

発言順	学校名	SDGs 17のゴール	提言テーマ
1	苅田小学校	⑫つくる責任 つかう責任 	SDGsを達成するために 私たちにできること ～食品ロスを減らすために～
2	馬場小学校	⑮陸の豊かさを守ろう 	ホテルが住む町 私たちの苅田町
3	南原小学校	⑤ジェンダーの平等を実現しよう ⑪住み続けられるまちづくりを ⑫つくる責任 つかう責任   	考えよう！ 取り組もう！ SDGs
4	苅田中学校	⑩人や国の不平等をなくそう ⑬気候変動に具体的な対策を  	外国人との共生 防災意識の向上
5	与原小学校	⑦エネルギーをみんなに そしてクリーンに ⑪住み続けられるまちづくりを  	苅田町の文化財の活用
6	片島小学校	⑪住み続けられるまちづくりを ⑮陸の豊かさを守ろう  	トカイナカをアピールしよう
7	白川小学校	⑮陸の豊かさを守ろう 	白川の自然、田んぼを守ろう
8	新津中学校	⑯平和と公正をすべての人に 	虐待の無い世界へ

○企画課企画推進担当 大森係長

子ども議会の開催に当たり、いくつか皆様にお願ひがあります。まず、携帯電話につきましては、電源をお切りになるかマナーモードへの設定をお願ひいたします。傍聴席の方におかれましては、御手元御配付の傍聴についてのお願ひを御確認頂き、御協力をお願ひいたします。

まず初めに、本日の出席者を紹介いたします。荇田町長の遠田でございます。副町長の城野でございます。教育長の井上でございます。このほか、荇田町役場執行部職員でございます。以上が、執行部の出席者です。続きまして、荇田町議会議長の沖永でございます。また、傍聴席には、荇田町議会から多くの議員の皆様にお越し頂いております。それではここで、荇田町 SDGs 子ども議会の主催者であります、町長の遠田孝一から御挨拶いたします。

○遠田町長

皆さん、おはようございます。荇田町長の遠田です。御挨拶させていただく前に皆さんに、お願ひをする件が1件ございます。荇田町の主要な水源であります、油木ダムの貯水率が現在 20.6%となっております。荇田町の浄水の約 8 割は、油木ダムからの放流水で賄っております。このような状況で、2 月上旬の段階で 20%というのは、過去最低のレベルになっています。非常に水の供給が厳しい状況になっておりますので、荇田町では渇水対策本部を設置して、町民の皆さん、それから企業の皆さんに節水をお願ひしておりますので、どうか今日御出席の皆さんも、御協力をよろしくお願ひいたします。それでは、御挨拶させていただきます。

本日は、荇田町 SDGs 子ども議会に御参加頂き、誠にありがとうございます。特に、各学校の代表として本日お集まり頂きました 32 名の子ども議員の皆さんに心から感謝申し上げます。また、この SDGs 子ども議会は、学校、保護者、町議会議員の皆様の御協力により、実現することができました。関係者の皆様に改めて、深く感謝を申し上げます。荇田町の未来を担う皆さんから、町に対する提言を直接聞く機会を頂き、大変嬉しく思っております。今回、皆さんからの提言を頂くにあたり、議会形式を採用させていただきました。議会では、一般質問といいまして、議員が日頃考えています地域の課題や町の事務の執行状況などについて、町長を初めとする町の執行部に説明を求め、または質問をするという制度があります。一般質問を行う議員は、その要旨を事前に議長に通告する、その通告書をもとに、役場全体で検討し、回答を準備するという仕組みになっております。今回の子ども議会も議会の決まりに沿って、事前に提言の要旨を通告頂いております。SDGs の視点から様々な提言を頂くことができるので、楽しみに思っております。

荇田町では、SDGs を積極的に推進するために、2021 年に SDGs 推進本部を立ち上げました。SDGs の実現を目指すため、荇田町 SDGs 推進プロジェクトを策定し、そのプロジェクトの一つとして、本日の子ども議会を皆さんの御協力のもと、実施をしております。「人を 荇田を 地球を想う 今こそ行動 SDGs」をスローガンに、荇田町役場だけではなく、地域、学校、企業などとも連携をして、持続可能なまちづくりを目指しています。未来を担う皆さんに、荇田町の未来について、SDGs の視点から、この町にある問題、課題は何だろうか、そういったことを質問頂き、社会への関心を高めていただきたいと思います。また、頂いた提言を、荇田町をより素晴らしい町にするための参考にさせていただきたいと思います。この荇田町 SDGs 子ども議会が、皆さんが持続可能な荇田町の未来を考えるきっかけになることを祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願ひいたします。

○企画課企画推進担当 大森係長

続きまして、荇田町議会を代表して、議長の沖永義樹から御挨拶いたします。

○荇田町議会 沖永議長

皆さん、おはようございます。荇田町議長の沖永義樹と申します。荇田町議会を代表して、一言御挨拶を申し上げます。本日の SDGs 子ども議会には町内の小・中学校から沢山の子ども議員の皆さんに御参加頂き、また、傍聴には保護者の皆様や先生方ほか、多数の御参加を頂きまして、盛大に開催されることを心からお喜び申し上げます。

さて、子ども議員の皆さんがおられる議場という場所は、普段私たち、町議会議員が町民の代表として意見や質問を述べる場所です。本日は、子ども議員の皆さんが SDGs について考え、取り組んだ内容を発表し、政策提言を行うとのことで、大変楽しみにしております。緊張するかもしれませんが、自信を持って、発表していただき、皆さんの成果や思いをしっかりと町長に伝えて頂きたいと思ひます。

また、本日の貴重な体験を、同級生や後輩の皆さんにぜひお伝え頂きたいと思っております。そして、これを機に町議会の仕組みや町役場の役割、政治経済、そして、社会の動きにも関心を持って頂きたいと思っております。結びに、貴重な体験が苅田町の未来を担う皆さんの素晴らしい思い出になりますようお祈りするとともに、本日ご出席の皆さんの御健勝と御多幸を心より御祈念いたしまして、開会にあたっての私の御挨拶とさせていただきます。がんばってください。

○企画課企画推進担当 大森係長

では、ここから前半の議長であります、新津中学校の森山議員と進行を交代します。森山議員、議長席にお着きください。

○森山議長

私は本日の子ども議会で、前半の議長を務めます新津中学校の森山です。円滑な議事進行のため、皆様の御協力をお願いいたします。傍聴席の皆様にも申し上げます。本日の子ども議会で、傍聴席においての写真、動画等の撮影を認めます。ただし撮影に当たっては、シャッター音やフラッシュなど、議事進行の妨げとならないよう、十分御注意ください。

それでは、苅田町 SDGs 子ども議会議員に任命されております小中学校の児童生徒 32 名のうち、前半の議員の御紹介をいたします。学校名、学年、氏名をお呼びしますので、その場で返事の上、御起立をお願いいたします。

苅田小学校 6 年、石田 和花 議員、渡慶次 珠莉 議員、草刈 風輝 議員、犬塚 清純 議員。以上 4 名が苅田小学校子ども議員となります。苅田小学校の皆さんは御着席ください。

次に馬場小学校 6 年、藤原 宙奈 議員、大倉 優藍 議員、緒方 琉偉 議員、高橋 直生 議員、峠本 剣士郎 議員。以上 5 名が馬場小学校子ども議員となります。馬場小学校の皆様は御着席ください。

次に南原小学校 6 年、大堀 琴鈴 議員、岡本 帆花 議員、岡田 愛叶 議員、木谷 朝陽 議員。以上 4 名が南原小学校子ども議員となります。南原小学校の皆さんは御着席ください。

次に苅田中学校 2 年、渡邊 輝 議員、吉村 陽昇 議員、前田 都羽 議員。以上 3 名が苅田中学校子ども議員となります。苅田中学校の皆さんは御着席ください。

さて、本議会は、学校ごとに子ども議員が SDGs に関連するテーマに沿った提言の発表を行い、回答を含めて各校 13 分の持ち時間で行います。議員の皆様におかれましては円滑な進行のため、時間厳守でお願いします。

それでは只今より令和 5 年度苅田町 SDGs 子ども議会を開会いたします。まず、最初の発表者である苅田小学校をお願いします。

○苅田小学校

「SDGs を達成するために、私たちができること～食品ロスを減らすために～」令和 5 年度、苅田小学校。食品ロスに視点を当てた理由は、私たちが食品ロスを知ったのは、総合的な学習の時間です。総合的な学習の時間では、日本の食品ロスの現状を調べました。日本での食品ロスの原因を調べてみると、大きく分けて二つありました。一つは、小売店での売れ残りや返品などの事業系食品ロス、年間 328 万トン。もう一つは、家庭から出る家庭系食品ロス、年間 284 万トンです。私はこの現状を知って、事業系食品ロスの方が、量が多いと思っていたので、量の違いが余りなくて驚きました。日本でも食品ロスが問題になっているということは、苅田町の課題とも言えるのではないのでしょうか。食品ロスの問題を改善して、苅田町をより良くしていきたいと感じました。それが日本を良くすることにもつながると思います。

今、日本の食品ロスの量は年間約 523 万トンということが分かっています。そして、1 日分の残菜はどれくらいかというと、1 日約 136 グラム。お茶碗 1 杯分を捨てているという計算になります。また、食品ロスにつながる主な理由は、食品の食べ忘れ、好き嫌い、食べられる部分も捨ててしまう、皮を剥くときに身を削ってしまうなどがあります。さらに、今の苅田町の食品ロスの現状を役場で聞いてきました。すると減らそうと努力しても減らない状況にあると言っていました。実際に苅田小でも給食の残りが多いという問題があります。私のクラスでは、リーダー活動という活動で、衛生リーダーというものがあります。衛生リーダーは、給食の残菜を減らすために残菜の写真を撮ってクラスルームに投稿したり、全員が配膳し終わるまでの時間を測り、給食時間を増やそうと努力しています。しかし残菜がゼロになる

ことがなかったという事実があります。先週衛生リーダーが考えた 1 号車だけは呼んで、2 号車からは、自分たちで判断して配膳するというのを実行すると減ったことが分かりました。改善するためにできることとして、個人でできることは、買い物に出かける前に冷蔵庫の中などの在庫を確認することです。

例えば、冷蔵庫の中の在庫を確認して、買い物に行くと無駄なものを買わなくて済むため、食品ロスへの改善ができます。また安いからという理由で安易に買い過ぎる前に、食べ切れる量かを確認する。安いからという理由で安易に買い過ぎてしまうと、残してしまい、食品ロスを増やしてしまいます。嫌いなものでも残さず食べ切る習慣をつける。私は茄子が嫌いなのですが、料理を変えて食べることによって、食べられるようになったことがあります。このように料理を変えて食べられるようになるならば、実現してみたらどうでしょうか。適切な保存方法で保存すると、長期間の保存が利くため、食品ロスを減らすことができます。全体でできることとして、市町村による食品ロスの削減に向けた取り組みの支援や PR ツールの配布や、効果的な PR の方法の周知などです。

終わりに、今回発表するに当たって、グループで調べたことや、日々していることについて話し合いました。話し合ったことで、隣のクラスでは衛生リーダーという活動をしていることを知り、食品ロスの課題を改善するために、私たちでもできることについて深く考えました。総合の時間で調べたことに加えて、子ども議会のメンバーで調べたり話し合ったりして、日本でも苅田町でも食品ロスが沢山発生していることが分かりました。改善するためには、難しいことをやろうとしても続かなくなってしまうので、簡単に続きやすいことを意識していくことが、SDGs を達成することにつながると思いました。

これから、私は学校では給食を残さず食べることを、家では期限が切れそうなものから食べたり、適切な保存方法で食品を保存することなどを意識して、生活していきたいと思います。御清聴ありがとうございました。

○森山議長

議員の皆さんは席にお戻りください。では執行部に答弁を求めます。

○遠田町長

はい。

○森山議長

遠田町長。

○遠田町長

食品ロスに関することをテーマにして、非常に分かりやすい発表だったと思います。衛生リーダーの活動や給食を残さない活動などが食品ロスにつながるのではないかと期待できる内容だったと思います。

苅田町の状況をちょっとお話をさせていただきます。令和 4 年度の町民 1 人当たりのごみ排出量は 932 グラム。全国平均は 890 グラム、福岡県の平均は 926 グラムですから、苅田町の 1 人当たりのごみ排出量は、全国平均よりも、あるいは県平均よりも多いことが分かると思います。町の計画としては、令和 15 年度までに 850 グラム、今から 1 日あたり約 80 グラムを減らすことを目標に、ごみの減量について取り組んでいきたいと思っています。大体バナナ 2 分の 1 ぐらいの重さになると思います。80 グラムぐらいをみんなが減らせれば、かなりごみの量が減るということになると思います。

それから、ごみの減量化に伴って、食品ロスをなくすということで、冷蔵庫の在庫の確認をするとか、買い過ぎない、あるいはエコバッグを持参するとか、色々なことが、それぞれまた皆さんで、できることがあるのではないかと思います。食品ロスを減らす、一人一人が意識を持ってそういうことにチャレンジすることが、町のごみの減量化につながっていく。大変有意義な提案であったと思います。

福岡県でも、チラシをつくったりするという動きもありますので、苅田町でも、近隣市町村とも連携して、食品ロスに関する PR を実施していきたいと考えております。貴重な提言を頂きまして、ありがとうございました。

○森山議長

ただいまの答弁に対して質問がありましたら、挙手の上、追加質問をお願いします。

○荇田小学校
はい。

○森山議長
荇田小学校。

○荇田小学校
ごみの排出量の現状を教えてくださいましたが、ごみの減量が進んでいないのは、なぜだと思いますか。

○遠田町長
はい。

○森山議長
遠田町長。

○遠田町長
ごみの減量が進まない原因についての質問ですが、環境審議会というのがありまして、そこで有識者の方から御意見を頂いたことがあるのですが、進まない要因としては、まず、ごみ袋を無料で配っていることが一つの要因ですという御指摘を頂いています。それからもう一つは、町外から荇田町にごみが持ち込まれているのではないかなというようなことも、要因の一つではないかと言われております。そういったごみが多くなると、ごみの処理というのは、税金を使ってやっておりますので、大きなコストがかかることにもつながります。

ですから、みんなで力を合わせて、ごみを減らすことに取り組んでいくということで、今日、皆さんが食品ロスを含めて、ごみの減量化について、提言を頂いたことは、町にとって非常に現実の課題にマッチした良い提言だったと思います。皆さんの提言に感謝申し上げたいと思います。

○森山議長
以上で荇田小学校の発表を終わります。
次の発表者、馬場小学校お願いします。

○馬場小学校
これから馬場小学校の発表を始めます。まず、動画を御覧ください。
～動画視聴～

私たちは4年生の総合の学習でこのような映像を見ました。こんなにきれいな蛍が私たちの荇田町で見られることに驚き、まずは蛍について、もっと知りたいと思いました。私たちは、蛍は何を食べるのだろう、蛍はどのように成長するのだろうかなどの問いを持ち、調べ学習を行いました。

これから4年生が蛍について調べたことを紹介します。このスライドも4年生がつくったものです。これは荇田町で多く見られる、ヘイケボタルです。また、荇田町には、ゲンジボタルという蛍もいます。蛍は5月下旬から6月にかけて産卵をします。ふ化した幼虫は8か月間、不安の中で過ごし成長していきます。その後、さなぎになります。6月上旬頃に成虫になり、私たちの目を楽しませてくれます。

次に、ゲンジボタルとヘイケボタルの違いについてです。ゲンジボタルの模様はこのように十字になっており、ヘイケボタルの模様は太い線になっています。ゲンジボタルの光り方は2秒に1回、ヘイケボタルの光り方は1秒に1回です。ちなみに、蛍の光り方で雄と雌を見分けることができるのを知っていますか。この光っている部分を発光器といい、発光器が一つになっているのが雌で、二つになっているのが雄です。つまり、強い光で光っている蛍は雄で、雄よりも光が弱い蛍が雌です。

このように、蛍のことを調べていくうちに、私たちは蛍を育ててみたいと思うようになりました。そこで、殿川とホタルを守る会の松岡さんに協力してもらい、蛍を育てる体験をしました。ホタルを守る会の皆さんが、蛍の卵がついた苔を持ってきてくれました。この苔に蛍は卵を産みます。霧吹きを使って毎日欠かさず川の水をあげることで卵がふ化し、下の白いかごに蛍の幼虫が落ちてきます。その後、ふ化した幼虫を、スポイトを使って数えながら集めました。最後に、成長した蛍の幼虫を殿川に放流に行きまし

た。苦勞してお世話をした蛍の幼虫との別れは寂しかったけど、これからぐんぐん育って多くの人を幸せな気持ちにしてねという思いを込めて、合計 6242 頭を放流してきました。

殿川とホタルを守る会の松岡さんと学習することで、蛍はきれいな川でしか生きられないことを知りました。蛍にとって魚、ザリガニ、鳥、蜘蛛などが天敵です。鳥は幼虫を食べ、蜘蛛は成虫を食べます。そのような生き物を川に放すと蛍がいなくなってしまう。またごみを捨てたり、川を汚してしまったりすると、蛍が生活する環境が破壊され、これもまた蛍がいなくなる原因になります。だから、川にごみを捨てないことや、油汚れをそのまま流さないことに気をつけ、きれいな川を守っていくことが大切です。これまで道路などの開発や川へのごみのポイ捨てによる汚染で、何度も蛍がいなくなる危機があったそうです。それでも、これまでボランティアの人たちが、蛍が住む川を守るために、活動してくれてくれたことを知りました。私たちのためにもこの美しい蛍を守ってくれた、その気持ちがとても嬉しく思いました。だから私たちも自分にできることをしていきたいです。そして蛍が住む川を次の世代に残していきたいです。

ここで遠田孝一町長に提言させていただきます。苧田町ホタルまつりを開催してはどうでしょうか。ホタルまつりでは、祭りに来た人に苧田町の美しい蛍を見てもらいたいと思います。多くの人がこの美しい蛍に感動することで、みんながこの蛍を守っていききたいと思ってもらえるのではないかと考えました。場所は蛍を見ることができ、殿川、苧田山笠が開かれる役場駐車場がよいと思います。しかし、蛍を守っていききたいと考えても、なかなか行動に移せないという人が多いのではないかと思います。

そこで、誰でも簡単に楽しみながら、苧田町の環境を守っていくことができるように、三つのイベントを考えました。一つ目はごみ拾いオリンピックです。最近テレビでごみ拾いが競技化されていることを知りました。興味がある人も多いと思います。このイベントで宣伝とごみが減ることを狙います。

二つ目は K-1 グルメグランプリです。これは苧田町のグルメナンバーワンを決める大会です。私も家族で B 級グルメフェアに出かけたことがあります。町外から多くの人が集まるし、苧田町のよさを宣伝するきっかけになると思います。また、食器に環境に優しい素材を使うなどの工夫もできます。

三つ目は、多くの人々がもっと気軽に参加できるものとして、蛍スタンプラリーを行います。ごみ拾いオリンピックの会場の近くにスタンプの一つを配置したり、K-1 グルメグランプリのごみを分別して捨てるなどの項目を入れます。これによって、その他の二つのイベントの活性化につながると思います。このことで、多くの人々の手で苧田町の環境が守られ、苧田町の蛍を守っていくことができると考えます。これで馬場小学校の発表を終わります。殿川の蛍についてのパンフレットもあるので、ぜひ見てください。御清聴ありがとうございました。

○森山議長

議員の皆さんは席にお戻りください。では執行部に答弁を求めます。

○遠田町長

はい。

○森山議長

遠田町長。

○遠田町長

馬場小学校の皆さんの発表を聞かせていただきました。蛍の生態あるいは見分け方など、知らないことが沢山ありました。大変勉強になりました。実際に蛍の幼虫を育てる取り組みをされているということで、これも非常に貴重な体験をされていると思います。蛍が住めるような苧田町の環境を守っていくために、ホタルまつりをしてはどうかというような提言を頂きました。

現在、殿川とホタルを守る会の皆さんの手によって、色々な活動が行われていることは、承知しております。蛍の鑑賞会でもありますとか、川を掃除するといったことが現在行われて、去年は 407 頭の蛍が観測されたということも聞いております。ごみ拾いオリンピック、K-1 グランプリ、スタンプラリーというような提言を頂きました。非常によい着眼点ですね。

町でも、そういうことを考えていく必要があるのではないかと思います。また環境を守っていくのは、殿川とホタルを守る会の方達だけに任せるのではなく、やはり環境を守るといった取り組みも必要だと思います。みんなで、それから皆さんのような若い力が、環境を守るための行動につながっていくこ

とが、非常に大きな期待ができることだと思います。

殿川とホテルを守る会の活動を皆さんが支援頂いていることに感謝を申し上げますとともに、殿川で、いつまでも蛍が飛び続けるような、そんな環境を守っていきたいと思います。ありがとうございました。

○森山議長

ただいまの答弁に対して質問がありましたら、挙手の上、追加質問をお願いします。

○馬場小学校

はい。

○森山議長

馬場小学校。

○馬場小学校

苅田町ホテルまつりのイベント開催を提言しましたが、イベント以外で殿川の環境を守るためにどのような取り組みをした方がよいと思いますか。

○遠田町長

はい。

○森山議長

遠田町長。

○遠田町長

お答えします。殿川がきれいになるだけではなくて、殿川周辺の整備というのが、非常に大事になるのではないかと思います。中央公民館の隣に殿川緑地公園という公園があるのですが、そこが随分柴が伸びて、見通しが悪かったので、現在工事をして、苅田町役場の前の道路から国道10号線までの間を年度内にきれいに整備をする。あるいは、役場の隣の石塚山古墳が、木が大分茂っておりましたので、伐採をして、景観をよくするということで、殿川だけではありませんが、町の緑地というか、私どもはグリーンプロジェクトと呼んでいます、緑の景観を保全していく、あるいは、荒れないように、手を入れていくみたいなことを、これからも継続して続けていって、殿川の蛍がいつまでも、皆さんの目を楽しませていただければいいなと思っています。

○森山議長

以上で馬場小学校の発表を終わります。

次の発表者、南原小学校をお願いします。

○南原小学校

今から南原小学校の発表を始めます。まず、南原小学校でのSDGs学習の取り組みについて紹介します。南原小学校では、2021年度から6年生が総合的な学習の時間にSDGsについて学び、苅田町に学習内容を発信したり、SDGs推進の提案を行ったりしてきました。SDGsは人類が抱える貧困、紛争、気候変動など、数多くの課題を解決し、豊かな地球を次の世代につないでいくためのものです。

本年度はまず17の目標を分担して調べ、一人一人新聞にまとめることにしました。調べた内容を共有し、目標を達成するために自分たちにできる取り組みは何か。苅田町にどんな提言ができるかについて考えました。これは17の目標について一人一人が調べ、新聞にまとめたものの一例です。調べていく中で、国や地域によってSDGsの取組内容や取り組む姿勢に大きな差があることが分かりました。安全で栄養のある食事をとることや、病気やけがの治療をすること、教育を受けることなど、私たちが当たり前だと思っていることが、ほかの国や地域では必ずしもそうとは限らないということです。調べた内容をまとめ、友達と共有することで、今の世界が抱えている課題や、それに対する取り組みをより具体的に

知ることができました。

そして 17 の目標の中から七つに的を絞り、苅田町の課題とそれに対する取り組みについて考えてきました。今回はその中から三つを紹介します。一つ目は、「ジェンダー平等を実現しよう」です。苅田町にはジェンダー平等について正しく理解している人が少ない、女性の子育て、家事の負担が大きい、女性の管理職や町議会議員が少ないという課題があると考えました。この課題に対して、一人一人ができる取り組みとしては、LGBTQ を支援する団体へ寄附することや、ボランティア活動に積極的に参加することが考えられます。そうすることで、誰もが暮らしやすい社会づくりの手伝いをするができるのではないかと思います。また家事や育児などは女性の仕事という考えをなくし、家庭内の家事を分担することも大切だと考えます。そのためにも男女の違いなく、個人の考えを尊重し、ジェンダー平等についての理解を深めていくことが重要です。苅田町の取り組みとして次の二点を提案します。一点目は雇用条件や待遇などの見直しを行っていくとともに、女性の管理職を積極的に起用していく働きかけをすることです。二点目に性による先入観をなくし、ジェンダー平等を正しく理解するための呼びかけやイベントなどを積極的に行うことも大切だと思います。

二つ目は、「住み続けられるまちづくりを」です。苅田町にはごみの量が多く、処理費用や処分場所に課題がある、ダム貯水率が下がると節水が必要、災害に対する備えが不十分という課題があると考えました。この課題を解決していくために一人一人ができる取り組みとして、ごみの量を減らすためにマイバッグを持参することが挙げられます。また、ごみのポイ捨てを減らすためにごみ袋を持ち歩くといと思います。こまめに水をとめて節水、使わない電気は消して節電などは、今日からでもできる取り組みです。災害に対する備えとしては、災害の直前ではなく、日頃から各家庭で防災グッズを準備しておくことも必要だと感じます。苅田町の取り組みとして、次の三点を提案します。一点目に、公園などの町なかにごみ箱を設置することです。それと同時に、ごみの持ち帰りを呼びかけるポスターなども必要だと思います。二点目はごみ袋についてです。苅田町のごみ袋はサイズが一つしかなく、少しのごみでも大きな袋で捨てることになります。大・中・小のサイズがある再生プラスチックごみ袋が良いのではないかと考えます。三点目に、災害時に避難場所となる学校に防災グッズを備えることで、災害に対する備えを強化できると考えます。

三つ目は、「つくる責任、つかう責任」です。苅田町には先ほどの目標 11 でもあった、ごみの量が多いという課題があります。これは大気汚染、水質汚染にもつながります。さらに、リサイクル率が低い、給食の残食が多いという課題も見えてきました。これらの課題に対し、一人一人ができることとして、次のような取り組みが考えられます。まず、ごみの量を減らすために必要な分だけ買うということです。学校では給食の一人一口運動を推進したいと考えます。一人一人があと一口を意識することで、残食を減らすことにつながります。また、残食が少ないクラスを放送で紹介することで、残食を減らそうという意識を高めていきたいと思います。苅田町の取り組みとして次の二点を提案します。一点目は町全体で 3R を推進することです。3R を推進するポスターや動画で呼びかけたり、イベントを開催したりすることで、苅田町の人に 3R の意識を高めてもらえると思います。二点目は、不用品の再利用に努めるために、リサイクルショップをつくったり、フリーマーケットを開催したりすることが有効なのではないかと考えます。

SDGs 学習を進めていくうちに、国や地域、立場の違いによって、目標達成のために取り組むべき内容が異なるということに気づきました。苅田町には苅田町の課題があり、まずはその課題に私たちが関心を持ち、解決するために行動することが大切であると思います。また異なる目標でも、目標達成のための取り組みに、同じものがあるということも分かりました。つまり、SDGs の 17 の目標は、相互に関連し合っており、一つの目標を達成するための取り組みをしていくことで、複数の目標達成につながるということです。目標達成のために一人一人ができることを考えて積極的に行動していくことで、世界の国が手を取り合い、持続可能な世界を実現することにつながっていきます。

まずは苅田町に住む私たちが、SDGs についての関心を高め、手を取り合って未来のために行動していきたいと思います。最後にジェンダー平等についての動画を作成したので御覧ください。

～動画視聴～

これで南原小学校の発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

○森山議長

議員の皆さんは席にお戻りください。では執行部に答弁を求めます。

○遠田町長
はい。

○森山議長
遠田町長。

○遠田町長

南原小学校の皆さん、発表ありがとうございました。町としての対策、あるいは一人一人ができること、そういったことを区別して、沢山の提言を頂きました。また毎年のように、南原小学校ではSDGsについて勉強したことを、町長室で提言を頂いている。そういうこともあって、非常に熱心に自分たちの周りを、考えているということがよく分かる発表をされたと思います。

沢山ありますので、少し絞ってお話をさせていただきたいと思いますが、ジェンダー平等について、令和5年に男女平等を具体的に進めるための計画をつくりました。その中で、新たに女性の登用あるいは職場環境の改善など、女性の活躍に積極的な取り組みを行っている企業や団体に対して表彰するという制度を今年度から始めまして、一件の事業所を今年度、表彰いたしました。表彰を通して、企業や団体の取り組みを、また多くの方々に知ってもらって、そういう取り組みが広がることが期待できる、あるいは女性の活躍の推進につなげることができればと思っています。

それから、ごみのリサイクルについてですが、町では収集したごみから、RDFという固形燃料をつくっております。その固形燃料は、セメント工場が町内にありますので、セメントの材料として、有効に活用するようにしております。あるいは回収した古着などは、自動車の内装材の原料にリサイクルをされるというような取り組みをしております。ですから、分別に御協力を頂きたいと思います。

それから防災用品についてですが、それぞれの避難所には、防災倉庫を設置して、防災倉庫の中に防災用品、食料だとか、ベッドだとか、そういうものを備蓄して、防災用品として備えています。防災用品は、特に食べ物はローリングストックといいまして、古いものをいつまでも保管しておくのではなくて、古くなって期限が近づいてきたらその前に、新しいものに取り替えるというようなことも含めて、進めております。

それから、女性の登用の話がありました。役場の状況をお話しますと、私は町長になって7年目ですが、管理職に占める女性の割合は、就任当初の8%から、現在は、女性管理職の割合が20%になっています。まだ十分と言えるかどうか分かりませんが、もっと、活躍できる場を、提供するというのも私の大切な仕事ではないかと思っています。貴重な提言を、沢山頂きましてありがとうございました。

○森山議長

ただいまの答弁に対して質問がありましたら、挙手の上、追加質問をお願いします。

○南原小学校
はい。

○森山議長
南原小学校。

○南原小学校

ジェンダー平等について、正しく理解してもらうために私たちは動画を作成しました。苅田町として行っている取り組みやこれから行おうと考えている取り組みについて教えてください。

○遠田町長
はい。

○森山議長
遠田町長。

○遠田町長

ジェンダー平等の動画を見せていただきました。男性だから女性だからということではなくて、社会的に平等といいますか、社会的な配慮をするということが、求められる時代になって、皆さんもそういったことを考えているなというのは大変よく分かりました。日本全体で、こういった取り組みというのを展開していく必要があると思いますが、苅田町では、パートナーシップ宣誓制度というのを導入しています。これは性的マイノリティーの方が大切なパートナーの方と家族として、安心して生活をしていただくための取り組みということになります。

具体的に言いますと、例えば、御家族として公共住宅に入居を認めるだとか、あるいは、大切な通知を受けるときには御家族として認めるとか、そういった、社会的に家族として認める、そんな仕組みを町としても始めています。

複数の方が、苅田町のパートナーシップ宣誓制度を御利用頂いております。色々皆さんが、そういったことも含めて考えていただいていることに、非常に頼もしく感じました。ありがとうございます。

○森山議長

以上で南原小学校の発表を終わります。

次の発表者、苅田中学校お願いします。

○苅田中学校

これから苅田中学校の発表を始めます。私たちは、外国人との共生、防災意識の向上というテーマで四つの提案を行います。まずは、「人や国の不平等をなくそう」の観点から、現状と私たちの提案を発表していきます。

これは苅田町の外国人の人口の変化をあらわしたグラフです。このグラフを見ると、現在苅田町では、外国人の人口が急増していることが分かります。2020年には過去に類を見ない1050人の外国人が苅田町に在住していました。それから4年たった今もなお、苅田町では外国人の人口が増加しています。つまり、この傾向だと、将来、苅田町で外国人の人口が増加し続ける可能性は高いと考えられるということです。そして、日本と外国にはいくつかの違いがあります。

その中で、私たちが注目したのが、ごみの出し方です。日本では燃えるごみ、燃えないごみ、資源ごみ、粗大ごみの4種類に分別をしています。一方、外国では、主にリサイクル、一般ごみ、葉などのオーガニックごみの3種類に分別します。このように、日本と外国のごみの出し方は大きく違うことが分かります。しかし、このような違いがあることで、外国人の中にはごみの出し方が分からないという人が出てくることも考えられます。外国人513人にアンケートをとった結果、日本のルールやマナーを知らずに困ったことがあるという外国人は60%いました。そのうち最も多かったのが、ごみの捨て方という内容で、41%の外国人が回答をしていました。ごみの出し方が分からないこと具体例として、自治体指定のごみ袋があることを知らなかった、ごみを前日の夜に出してはいけないと知らなかった、可燃ごみと不燃ごみの違いが分からなかったなどが挙げられました。その中で、私たちは違いが分からなかったという点に着目して、ごみ袋やごみ箱にマークを付けたり、色で分けたりすることを提案します。

理由としては、日本人だけでなく、外国人にも分別するときに分かりやすいからです。また、ごみ清掃員の方は、ごみ袋を見落とさないように意識しているということでしたので、ごみ袋に色をつけると、ごみ清掃員の方が、ごみの回収を見落としにくくなります。

次は、「気候変動に具体的な対策を」の観点から、現状と私たちの提案についてお話しします。最初に、自然災害による被害についてです。近年能登半島沖地震が起きて甚大な被害が報告されているように、全国で台風や地震、豪雨などの自然災害が多発しており、多くの被害が出ています。そして全国だけでなく、九州でも、熊本地震、九州北部豪雨、西日本豪雨など、毎年大きな被害が発生しているのです。福岡県でも毎年多くの被害が発生していることから、苅田町も直ちに具体的な対策をとらなくてはならないと考えました。これは現在の苅田町の避難場所です。避難所にしか防災倉庫や防災ベンチが置かれていないため、避難してきた人の不安は大きくなると予想されます。

そのことから、私たちは、公園ごとにも防災倉庫や防災ベンチを置くことを提案します。理由としては、大きな災害が発生し、救助や支援物資が届くまでの間、水道や電気などのライフラインが復旧するまでの間、避難場所に向かう道が開通するまでの間などの命をつなぐ、防災用品を保管しておくことができるからです。防災倉庫の中身につきましては、医療品、食料、生活必需品、車椅子や担架を入れることを考えています。次に、防災ベンチについてです。防災ベンチとは、トイレやかまどなどの機能を持ったベンチのことです。このベンチは通常時、普通のベンチとして使うことができ、とても便利なものだ

考えています。次に、苅田町独自の避難行動計画表を配布することを提案します。理由としては、避難行動計画表をつくることで、苅田町全体の避難意識を高めることができるからです。

また、避難行動計画表を配付した上で、半年に1回程度の小学校区ごとの避難訓練を行うことを提案します。これは実際に避難行動の仕方が適切であるかを再確認する取り組みです。また、人や国の不平等をなくそうといった観点で、苅田町には外国人が多いと話したので、外国人向けの避難行動計画表をつくることも考えています。避難訓練について詳しく話します。平成27年度の内閣府によって行われた苅田町全体での避難訓練では、参加してよかったと思った人は全体の95%を占めていました。また、定期的に、1か月1回ぐらい実施してほしい、体験することが大事などの町民の感想や、点呼方法やお年寄りの避難通路の確保を再確認したい、サイレンでの呼びかけを行いたいなど、町の悩みもありました。なので、定期的に苅田町内の小中学校や消防署など、町が連携をとって、町民だけの避難訓練の実施を設けることを提案します。

まとめです。僕たちが提案することは、ごみ袋、ごみ箱にマークや色をつける。防災倉庫や防災ベンチを設ける。避難行動計画表を配布する。半年に1回程度、町民だけの避難訓練を実施することです。また今回の学習で、苅田町の現状や、課題を発見することで、自分たち中学生の意識を高めることができました。この活動を生かして、中学校の生徒会にも活用していきたいと思いました。以上で、苅田中学校の提案を終わります。御清聴ありがとうございました。

○森山議長

議員の皆さん席にお戻りください。では執行部に答弁を求めます。

○遠田町長

はい。

○森山議員

遠田町長。

○遠田町長

苅田中学校の皆さんから、苅田町の様々な課題に着目してもらって、具体的な提言を頂きました。ありがとうございました。まず提言の最初の部分の外国人の生活についてお答えをしたいと思います。ごみ袋の色づけについての提案ですが、苅田町では、現在、既に、ごみの種類によって文字の色を変えるというような取り組みをしております。国籍を問わず、町民に分かりやすいように、ごみ袋については、袋の文字の色を分けているということです。

それから、外国人の方が、今増え続けていますというお話がありましたが、現在はもう1400人を超える外国人の方が苅田町で暮らしておられます。外国人の方に日本語教室でありますとか、生活オリエンテーションを実施するなど、苅田町の役場の中に、外国人支援の担当の方を配置しておりますが、その方を中心にして、ごみの出し方などの生活文化の支援なども行っております。外国人の方が苅田町で安心して暮らせるような政策を、続けていきたいと思います。非常にいい着目点だと思いました。

それから二つ目、防災計画についての提言を頂きました。能登半島地震により大変大きな被害があって、多くの方が犠牲になって、避難を強いられている様子が、連日報道されておりますので、ニュースを見るたびに、本当に心が痛む状況です。備えをしなければならないと感じております。

現在、苅田町の防災倉庫は町内の12か所に設置をしております。その中には、水や毛布、食べ物、段ボールベッドなど必要な物資の備えをしております。苅田町は、過去比較的災害が少なかった地域だと言われておりますが、大きな災害が起こったときには、やはり、行政だけで、町民の皆さん全体を支援するのは大変難しい状況になると思いますので、それぞれの区単位、自主防災会の単位で、防災に対する取り組みを進めるということも、町が財政的な支援もしておりますし、ハザードマップを作成して、全家庭にお配りをしています。ぜひ自分の住んでいるところはどんな危険があるのか、ハザードマップを見ていただくことや、またホームページからも検索ができますので、災害が起こったときの対応などを、御家族と話し合っていただくこともいいのではないかと思います。

あともう一つ付け加えますと、大雨だとか台風だとかになりますと、事前に大体来そうだなということが分かるような時代になってきています。ですから、災害の危険が迫っていることを事前にお知らせをする。そういう仕組みを町の中でつくって、今までは防災無線といって外からスピーカーでお知らせし

ていたのですが、テレビを通じて、あるいは LINE を通じて、そういった SNS とか、電波やメディアを使って、町民の皆さんに事前に災害の危険をお知らせする、そんな取り組みを進めています。ただ、これで十分かというと、提言頂きましたようにまだまだやらなくてはいけないことが沢山あると思います。提言頂いた内容を踏まえて、今後も防災について取り組んでいきたいと思っています。皆さんの提言ありがとうございます。

私の方から子ども議員の皆さんに質問させていただきたいと思いますが、皆さんの家庭の中で、それぞれ防災について色々な御意見があろうかと思いますが、皆さんの家庭での防災対策として、例えばこんなことをやっていますみたいなことがあれば、聞かせていただければと思います。

○森山議長

今の質問に対し挙手の上、回答をお願いします。

○荻田中学校

はい。

○森山議長

荻田中学校。

○荻田中学校

災害用ラジオや懐中電灯などの防災用品の備えや、家族での話し合いで、災害時は近隣の公民館や小・中学校といった避難場所に集合するなどの確認を行っています。

○遠田町長

はい。

○森山議長

遠田町長。

○遠田町長

ありがとうございます。本当に災害は、いつ起こるか分からないということが、能登半島地震でもよく分かりました。みんなで防災に対する備えをして、命を守る行動をとるといったことを、この機会に改めて認識をして、防災に対する備えを力を合わせてやっていきたいと思っています。提言ありがとうございます。

○森山議長

以上で荻田中学校の発表を終わります。ここで前後半入れ替えのため、10 分間の休憩をとります。後半の会議は 10 時 50 分から再開いたします。なお、休憩後は荻田中学校の渡邊議員と議長を交代いたします。議事進行への御協力ありがとうございました。

～休憩～

○企画課企画推進担当 大森係長

では、ここから後半の議長である荻田中学校の渡邊議員に進行を交代いたします。渡邊議員、よろしくお願いいたします。

○渡邊議長

議長を交代し、会議を再開いたします。私は森山議員にかわり、後半の議長を務めます荻田中学校の渡邊です。前半に引き続き、皆様の御協力をお願いいたします。

では、まず荻田町 SDGs 子ども議員に任命されております、後半の議員の紹介をいたします。学校名、学年、氏名をお呼びしますので、その場で返事の上、御起立をお願いいたします。

与原小学校 6 年、柿本 侑祐 議員、石田 華子 議員、飯塚 比菜 議員、伊尻 梨依紗 議員。以上

4 名が与原小学校子ども議員となります。与原小学校の皆さんは御着席ください。

次に、片島小学校 6 年、秋永 知美 議員、磯谷 蘭真 議員、河野 惣太 議員、越智 恵 議員。以上 4 名が片島小学校子ども議員となります。片島小学校の皆さんは御着席ください。

次に、白川小学校 6 年、江村 翔太郎 議員、岸川 寧々 議員、佐々木 優里 議員、古木 奏愛 議員。以上 4 名が白川小学校子ども議員となります。白川小学校の皆さんは御着席ください。

最後に、新津中学校 2 年、杉田 夏望 議員、中村 明依 議員、石川 愛星 議員、森山 匠 議員。以上 4 名が新津中学校子ども議員となります。新津中学校の皆さんは御着席ください。

それでは、前半に引き続き、提言の発表を行います。まずは、与原小学校お願いします。

○与原小学校

皆さん、こんにちは。与原小学校です。私たちは総合の「地域史跡について調べよう」の学習で、苅田町にある御所山古墳について調べました。御所山古墳という文化財を活用して、SDGs の 11 の 4、7 の 2、17 の 17 の取り組みを行うことで、苅田町をより魅力的なまちにすることができるのではないかと考えました。まず、学習を進める中で見つけた御所山古墳のすばらしさについて三つ説明します。

一つ目は古墳の形です。形は前方後円墳であり、有力な王や貴族の墓であると言われています。二つ目は出土品です。古墳からはスライドにあるようなものが出土しています。中でもここでもしか出土されていないものとして貴重な馬具があります。三つ目は、国の史跡に指定されているということです。国の史跡に指定された理由は、今まで述べた点と、周濠があること、築造当時の姿をとどめていること、九州北部で屈指の規模を誇る大きさであることです。以上のことから苅田町にある御所山古墳にはとてもすばらしい価値があることが分かります。

調べる中で、スライドにあること以外に分かったことがあります。それは地域の人が古墳を守り続け、重要さについて当時の町長や県に話をする努力があり、こんなにも重要な文化財にしてくれたことです。その与原の思いを私たちも引継ぎたいと思います。私たちは、地域にこんなにすごいものがあると知り、すごい、嬉しいという気持ちがあふれてきて、この町に住んでいることを自慢に思い、住んでいることが嬉しくなりました。苅田町のみんなにもこの気持ちになってもらい、苅田町を誇りに思ってもらいたいと思います。そこでキャッチコピーをもとに、御所山古墳の魅力を広めていくべきだと考えます。

そのキャッチコピーとは、「町民が愛し、人をつなぐ古墳、ほかの古墳と一味違う」です。その理由は、御所山古墳を地域の人たちが、長い間守り続け、文化財にする行動があったなど、人々の思いがあるからです。このキャッチコピーで、より御所山古墳の存在を知ってもらい、人々のつながりに気づく中で、ほかの古墳とは一味違うものだ体験してもらいたいです。

遠田町長、苅田町の自慢は何ですか。私たちは御所山古墳だと考えます。しかし、町民にとって御所山古墳はどのような存在なのでしょう。私たちは御所山古墳について、与原小学校の 1 から 5 年生にこのようなアンケートをとりました。まず一つ目の御所山古墳を知っていますかの結果です。次に御所山古墳がどこにあるか知っていますかの結果です。最後に御所山古墳について説明できますかの結果です。このことから御所山古墳について詳しく知っている人はほとんどいないことが分かりました。

では、なぜ御所山古墳について詳しく知っている人は少ないのでしょうか。私たちが考えた、知られていない理由は、1、目立っていない、御所山古墳は知らない人々からは古墳ではないものと思われている。2、古墳を知ってもらえるものがない、古墳に関する日常で使えるものなど、人々が買いたいと思えるものがない。3、魅力が知られていない、私たちは御所山古墳の勉強をして、御所山古墳には沢山のすてきな魅力があることを知りました。ですがそれを知る機会がない、以上の三つです。

先ほど町長に聞いたように、苅田町の自慢について聞いてみました。すると、1 位は山笠、2 位は工業、3 位は食べ物でした。この結果から、多くの人は山笠が苅田町の自慢と思っていることが分かります。では、なぜ山笠は人気があるのでしょうか。その理由はスライドのとおりです。では、御所山古墳をどうやって有名にしていっていいのでしょうか。そのための方法について考えてみました。

そこで SDGs の三つの視点で取り組みを考えました。この取り組みは 5 年間の工程で考えています。1 年目である今年の提案について説明します。一つ目は古墳環境を改善し、文化財である古墳を活用したイベントを開催することです。

二つ目は地域の住民や関係者と協力して、古墳の魅力を商品化することです。詳しい内容は、次のとおりです。まず一つ目の取り組みについて、説明します。私たちは、ライトアップとイベントの開催を提案します。ライトアップを提案した理由は、古墳の存在やその価値に気づくよう、もっと古墳の周りの環境を整えることが大切だと考えたからです。ライトアップのメリットは、夜も古墳をきれいに、はっきりと見る

ことができ、多くの人の目に入ることです。また置くだけのフットライトを使用することにより、古墳を現状のままで維持できます。電気代は太陽光発電で賄い、電気代や地球に優しい環境をつくると考えます。

次に三つ目の取り組みについて説明します。小売店や製造業者と協力して、商品開発をすることを考えました。苅田町の飲食店、コンビニ、ルミエールなど町内のお店と協力することで、町が一つになります。地域限定商品にすることで、苅田町にしかない魅力を提供でき、地域のイベントに合わせた商品にすることで町を盛り上げ、地域の活性化にも貢献できると考えます。具体的な食べ物や商品を紹介します。まずは食べ物についてです。考えている商品についてはスライドにあるとおりです。ほかの地域にはない苅田町の独自性を発揮すれば、消費者の口コミや SNS を通じて、地域の魅力を発信してもらえ、まだ苅田町を訪れていない多くの方にも、関心を持ってもらうことが期待できます。次にお土産や生活場面で使える商品について紹介します。具体的にはスライドにあるとおりです。私たちはこの中にある商品を実際につくってみたので、御覧ください。古墳を通して苅田町の魅力を多くの方に知ってもらい、町民がつながることを願っています。提案は以上です。御清聴ありがとうございました。

○渡邊議長

議員の皆さんは席にお戻りください。では執行部に答弁を求めます。

○遠田町長

はい。

○渡邊議長

遠田町長。

○遠田町長

地元で古墳がある、まさに与原小学校ならではの発表だったと思います。皆さんの着眼点がすごいなと思いました。御存じのように、御所山古墳は、古墳時代の中期につくられた北部九州でも屈指の規模を誇る前方後円墳です。昭和 11 年に国の指定の史跡になっております。

実は町でも、御所山古墳のグッズをつくっております。今ちょっと紹介をします。手拭いやクリアファイル、しおりなんかを、こんなふうにつくっております。こういうものがあるということを、この機会にぜひ知っていただければと思います。ありがとうございます。

それから、苅田ガイドの会による「しっちゃんかん苅田」というツアーがあります。その中でも、御所山古墳の魅力をより多くの方に知っていただく取り組みというのも、進められています。それから役場の中には、町の歴史担当という部門がありまして、そこでは、文化財の保全も含めて、古墳を保全するための仕事を役場職員がやっています。ただ、アンケートの結果で、あまり知られてないですというような結果がありましたので、もう少し、知ってもらうような取り組みを拡大する必要があるのかなと思いました。

古墳時代中期といいますと、大体、1600 年ぐらい前の話だと、その頃に、あのようなものがつくられたということをみますと、やはりすごいものが地元にあるなということを、改めて分かっていただけるのではないかと思います。皆さんのグッズも見せていただきましたので、そういったものを、もっと PR をしながら、御所山古墳を知ってもらうような取り組みを拡大していきたいと思います。非常に良い提案を頂いたので、私から皆さんにちょっと質問を一つさせていただきたいと思います。

小学校の 1 年生から 5 年生までの認知度がいまいちですというようなお話がありましたね。具体的にその認知度を上げるために、どんなことをしたらよいのか、何かそういうことを考えていることがありましたら、ぜひ教えていただきたいと思います。

○渡邊議長

今の質問に対し、挙手の上、回答をお願いします。

○与原小学校

はい。

○渡邊議長

与原小学校。

○与原小学校

僕たちが今提案した内容を実現することと、与原小学校の校舎の中に、御所山古墳について知るコーナーをつくろうと考えています。以上です。

○遠田町長

はい。

○渡邊議長

遠田町長。

○遠田町長

ありがとうございます。与原小学校の中に、コーナーをつくるということも、地元で古墳を持っている小学校ならではのだと思います。大変良いことだと思います。来てもらう、あるいは見てもらう、そして知ってもらうことを、ぜひ展開をしていきたいと思います。貴重な、そしてユニークな発表だったと思います。ありがとうございました。

○渡邊議長

以上で与原小学校の発表を終わります。

次の発表者、片島小学校をお願いします。

○片島小学校

今から私たちが学んだことをもとに、考えたことを発表します。私たちは、総合の時間に荻田町のすてきなところを調べ、紹介する学習をしました。その中で、トカイナカをアピールするために学んだことや、そこで気づいた課題解決策について発表します。荻田町は、都会と田舎の中間、トカイナカです。トカイナカである荻田町は魅力のあるもの、場所、行事がいくつもあります。僕たちは1学期に荻田まちづくり観光協会の方から、荻田町の魅力を教えていただきました。今から自分たちで調べたことや、荻田まちづくり観光協会の方から教えていただいたことについて発表します。そしてこれからの荻田町のまちづくりについて、提言したいと思います。

まず、神ノ島について紹介します。神ノ島は細長い、三つの島からできている無人島です。島の西端には、海の守り神とされている市杵島神社があり、市杵島姫之命を祀っており、弁財天のほこらや、赤い鳥居が立っています。神ノ島にはいくつかの伝説が伝えられており、宇原神社にまつわるものや豊玉姫伝説、白蛇伝説などがあります。神ノ島の名前の由来には、島の形がお釈迦様の姿に似ていることからだそうです。橋もなければ港もないので、潮が引いているときは船が渡れません。神々が立ち寄る島として、昔から領民の信仰を集めてきました。私が思う神ノ島の良いところは深い歴史があり、家などが建っていないため、自然が豊かなところなんです。

次は荻田山笠です。荻田山笠は荻田町で570年以上続く歴史ある秋祭りです。宇原神社の氏子による五穀豊穡を祈る祭りです。私が思う荻田山笠の良いところは、見るととても迫力があり、一つ一つの飾りがきれいなところなんです。また、この荻田山笠の飾りには一つ一つに意味が込められているところなんです。私はこの荻田山笠が、これからも続いてほしいと思いました。

次は鬼の唐手岩です。鬼の唐手岩は平尾台にあります。約1億年前にマグマが深い地下で、冷えて固まってきた岩脈が、長い年月をかけて、地表にあらわれ、侵食された結果、現在の形になったと考えられています。すぐ西側に広谷湿原が広がっているのは、唐手岩が貫山方面から流れ出てくる複数の水流を一時的にせきとめているためで、また青龍窟という大きな洞窟が形成されたのも、水流が唐手岩であわせられ、そこから一気に下方に石灰岩が流れこんだためです。この鬼の唐手岩のよいところは、石の上に立ったら、とても景色がきれいなところなんです。

次は日産自動車九州工場です。日産自動車九州は荻田町に本社を置いていて、海の近くに建てられています。日産の自動車はロボットが、車体溶接や組立てなどを行っており、日産自動車九州は様々な技術が発達しています。工場で作られた自動車は、船に乘せられて、国内だけでなく、アメリカなどの世界中の国に出荷されます。日産自動車九州がある荻田町は、世界の色々なところとつながっていま

す。この日産自動車九州の良いところは二つあります。一つ目は、ロボットと人が作業を分担して行っていて、安全で安心な自動車ができることです。二つ目は社会見学で自動車について学習ができることです。僕は社会見学で工場を見学して、ロボットが効率よく自動車を組立てているところがすごいと思いました。

苅田町は、日産自動車九州などの工業地帯や全国有数の大企業が沢山集まっています。また、陸・海・空の交通拠点が集まっています。自然が豊かな場所も沢山あり、産業と自然が融合するまちです。苅田町には沢山の歴史があり、すてきな場所が沢山あることを教えていただきました。これからも大切にして、伝えていきたいです。

そのために、私たちは沢山のの人に苅田町のよいところを知ってもらいたいと考えました。すると、いくつか課題が見つかりました。一つ目は、苅田町の魅力が余り知られていないことです。私たちもこの学習で初めて知ったことが多かったからです。二つ目は、苅田町役場や苅田駅には苅田町の魅力が分かるポスターなどが貼られているけれど、それ以外の場所では余り見かけないことです。三つ目は、苅田まちづくり観光協会という組織が余り知られていないことです。私たちはこの学習で苅田まちづくり観光協会のことを初めて知り、ホームページを見ると、沢山の苅田町の魅力が紹介されていました。このように、ポスターやホームページなどで沢山紹介されているけれど、そのことを余り知られていないのが課題であると考えました。

そこで、私たちは二つの解決策を考えました。一つ目は、人が多く集まる場所に苅田町の魅力が伝わるポスターを貼ることです。例えば、九州の玄関口である博多駅や小倉駅、北九州空港など、苅田町以外の場所にポスターを貼ることで、多くの人が苅田町に興味を持ち、足を運んでもらえるようになると思います。

二つ目は、苅田まちづくり観光協会の取り組みをもっと沢山の人たちに、知ってもらえるように工夫することです。例えば SNS などを用いてうまく利用することで、苅田町の魅力をもっと沢山のの人に詳しく知ってもらえると考えます。僕たちが町長へ提言したいことは、苅田町魅力を沢山のの方に知ってもらえるように、さらに苅田まちづくり観光協会の人たちと協力をして、まちづくりを進めてほしいということです。これで片島小学校の発表をおわります。

○渡邊議長

議員の皆さんは席にお戻りください。では執行部に答弁を求めます。

○遠田町長

はい。

○渡邊議長

遠田町長。

○遠田町長

片島小学校の皆さん、ありがとうございます。苅田町をよく知ってもらうための取り組みということについて、大変よくまとめた発表だったと思います。神ノ島、苅田山笠、鬼の唐手岩、それから日産自動車九州ですね。産業と自然が融合するというようなことを、皆さんが色々考えていただいたことに本当にありがたいと思います。町でも、色々な取り組みをやっているのです、ちょっと御紹介したいと思います。

まず苅田町は工業都市として広く知られておりますが、それとは別に、このようなポスターを、今年度つくりました。今年度新しいものをつくって、今まさに皆さんが言われた産業と自然が融合するまちということで、「小さな町に大きな魅力」というキャッチコピーをつけて、4種類のポスターをつくりました。今皆さんから提言頂いたように、役場だけでなく、もっと色々なところに貼って、町の魅力を知ってもらうような取り組みを進めたいと思います。それから苅田町には色々な、自然、それからさっき言いました古墳だとか、伝統文化だとか、非常に沢山の魅力があります。そういったことを、こういったポスターなどを通じて、また町民の皆さん、あるいは町外の皆さんに、知っていただく取り組みをもっと進めていかなければならないと、皆さんの提言を受けて思いました。

それから、観光協会ですが、令和4年に苅田まちづくり観光協会と名前を変えました。情報発信を中心としたPR事業もやっておりますが、地元の盛り上がりということに、非常に熱心に、取り組んで頂い

ております。地域の人が誇りや愛着を持つ、魅力あるまちづくりということで、体験プログラムでありますとか、白石海岸の清掃でありますとか、あるいは、等覚寺の棚田祭りとか、色々なことに、参加を頂いて、中心となって動いていただいておりますし、地域のコミュニティのときも、非常に大きな力を発揮していただいていると思います。提言頂いた内容を、取り入れて、これからますます苅田町のことを、多くの方に知ってもらうように、取り組みを拡大していきたいと思います。発表ありがとうございました。

○渡邊議長

ただいまの答弁に対して質問がありましたら、挙手の上、追加質問をお願いします。

○片島小学校

はい。

○渡邊議長

片島小学校。

○片島小学校

苅田町外の方がもっと苅田町に来てもらえるような取り組みとして、どのようなことが考えられますか。

○遠田町長

はい。

○渡邊議長

遠田町長。

○遠田町長

今、ポスターをつくったというのは御紹介したのですが、タブロイド紙というのを、令和5年度になってつくりました。苅田グラフということで、これは広報と一緒に挟み込んで全部の家庭に、お配りをしました。私どもは、会議に行ったりだとか、企業誘致に行ったりだとか、色々な会合に出ていくときにこれを持って行って配って、苅田町はこんな町ですよということを、町外の方に、それから、町長室に沢山お客さんお見えになりますが、そういった方々にも、見ていただいて、タブロイド紙を配って、ぜひ苅田町のことをもっと知ってくださいというような取り組みを進めています。

北九州空港に苅田町のブースがありますので、そこにも貼って、あるいはお持ち帰り頂くことで、発信に努めております。また北九州空港は、現在2500メートルの滑走路が3000メートルに延長される工事が始まりました。そうすると、大型の貨物機が飛んでくるようになりますから、ものが沢山、物流といいますが、物流が大きく飛躍的に増えるだろう、そうすると、人の流れももっと多くなるだろうということが想定をされます。苅田町は連絡橋につながっていますので、苅田町に来る方が沢山増えるだろうと思いますので、皆さんに提言頂いた、観光あるいは苅田町を知ってもらうための取り組みを、これからもっと拡大をしていきたいと思います。発表ありがとうございました。

○渡邊議長

以上で片島小学校の発表を終わります。

次の発表者、白川小学校をお願いします。

○白川小学校

今から白川小学校の発表を始めます。発表のテーマは、「白川の自然、田んぼを守ろう」です。白川小学校の周りには自然が沢山あり、その自然を守るためにどのような取り組みが必要なのかを考えました。この発表では、最初に農業の課題、次に白川小学校の取り組み、苅田町への提言1、提言2の順番で発表します。

農林水産省の資料によると、農業に携わっている人は、2005年には335万人いましたが、2020年には167万人まで減っていきました。この15年間で農業に携わる人が、168万人減ったことになり

ます。また農業をしている人の平均年齢も 62.3 歳から 66 歳を超えるなど、高齢化が進んでいます。同じように苅田町でも、平成 12 年には 335 人の人が農業に携わっていましたが、令和 2 年には 160 人まで減っています。この 20 年間で約半分に減っていることが分かります。この結果から近年、田んぼが太陽光ソーラーパネルの土地や住宅地へと変わっている地域も多くなってきています。白川の自然を守っていくために、これらの課題をどのように解決していくのか、私たちが取り組んでいる活動や考えた解決策を説明したいと思います。

農業をする人の数が減っている中で、白川小学校では 5 年生が米づくり体験をする取り組みを行っています。5 年生でする体験活動の内容は、5・6 月に田植、9 月に稲刈り、乾燥させた後に脱穀をします。脱穀して精米したお米を使って、家庭科の学習の調理実習で使うこともあります。これが 5 年生で体験する取り組みです。このような取り組みは、農業に対して興味を持ってもらえるように、子どもの時に学習して、夢を持っておけば、将来農業をする人が増えると思います。また、白川の自然の中で暮らしている僕たちが、感じているよさは沢山ありますが、ここでは三つを紹介したいと思います。

一つ目は、風通しがよく、エアコンがなくても涼しいということです。電気代の節約や二酸化炭素の排出を抑えることにもつながります。二つ目は、空気がきれいということです。空気がきれいだと体力や集中力の向上にもつながります。三つ目は、地産地消ができるということです。これによってフードロスの減少や運搬の費用などが抑えられるため、価格が下がるので、消費者にも生産者にも利益があります。苅田町の給食にも白川の食材が使われることがあります。

このことから自然が増えると、住んでいる人にとっても、良いことがあります。私たちが考えた白川の自然を守るための解決策、提言 1 を説明します。まず SNS を使い、苅田町の良さを呼びかけます。そうすれば外国の人や他の自治体から、苅田町に移住しに来る人が増えます。苅田町に住む人が増えれば、住民税や固定資産税などで町役場に税金が入ってきます。このお金を田んぼにあまりお金をかけられない人の支援に少し当てられるのではないかと考えます。そうすれば簡単に米づくりができる上に、急にお金を出せないという問題も解決できると思います。

次に SNS を使って、白川米を宣伝して白川米の知名度を向上させます。白川米の知名度が上がると、ふるさと納税での返礼品で白川米が沢山売れ、ふるさと納税で苅田町のお金が増えます。そのお金をもとに設備をそろえることができます。そうすることで、白川で米づくりをやりたいと思う人も増え、外国から移住してきた人にも米づくりに携わってもらうことができるのではないのでしょうか。前のページで設備が全部そろっていると言いましたが、ここでなぜ設備がそろえるのかを発表します。まず SNS で苅田町の良いところを紹介して、人が沢山苅田町に集まったとします。しかし、苅田町に集まっても米づくりに興味を示さない可能性があります。その理由は三つ考えられます。それは収入が十分でない、したことのない農業を簡単に始められない、機械を使いたいが高額のため購入できず、使用することができないといった悩みが出てくると考えます。この三つの問題の改善策を自分たちなりに考えてみました。

三つの問題を解決していくために、ふるさと納税を使ってみてはどうでしょうか。一つ目の収入面の問題、これはふるさと納税でお米を売ったりして、白川米が有名になると、お金がいっぱい入ってきます。これを、収入面を安定させるために使う。二つ目の簡単にできないという問題、これはふるさと納税で米づくり経験のある人にサポート料などを支払って、米づくりをサポートしてもらうシステムをつくる。三つ目の機械を持っていない、これはふるさと納税でお米を売ったときに入ってくるお金の一部を使い、農業する人が、少額のお金で機械を持っている会社からレンタルできる仕組みをつくる。このように SNS を使って活発にしたふるさと納税を活用していくことで、問題を解決していけると考えました。農業の課題を解決することは難しいかもしれませんが、白川のきれいな自然を守るための取り組みは大事だと考えます。これからも引き続き、自分たちが何をすれば自然を守れるのかを考えていきたいと思っています。皆さんも自分の生活を見直し、自然を守るにはどのような活動がよいか考えて、行動してもらえると嬉しいです。これで白川小学校の発表を終わります。

○渡邊議長

議員の皆さんは席にお戻りください。では執行部に答弁を求めます。

○遠田町長

はい。

○渡邊議長

遠田町長。

○遠田町長

白川小の皆さん、発表ありがとうございました。白川の自然や田んぼを守るということをテーマにして発表していただきました。白川では大変おいしいお米ができることは私も知っております。提言を頂いた白川の自然、田んぼを守ろうということについてお答えしたいと思います。発表の中にもありましたが、農地を守るためにやはり課題がいくつかあります。農業がもっと振興するための課題というのは、色々な考え方があるかもしれませんが、一つ目としてやはり高齢化が進んで、農業の担い手が減っているということが一つの課題だと思います。

それから二つ目としては、農業ができなくなると、その田んぼを、使わなくなる。そうすると耕作放棄地として、田んぼが荒れてしまうというようなことが、増えるという懸念もあります。それから、農業を新しく始めようという方にとって、やはり機械をそろえるということや作業のやり方も含めて、やはりハードルが高いのではないかと感じています。ただ、農業は日本にとってとても大事な産業ですから、農業の担い手を、増やすための支援策としては、国も行っておりますし、県も行っております。苅田町も、農地の保全をするために、例えば農業機械の購入の一部を補助するだとか、あるいは耕作放棄地を減らすために、耕作放棄地を活用していただくための補助をするだとか、新しい農業支援策を今年度から始めています。複数の支援策がありますので、その支援策がどのように効果を発揮しているか、その検証をして、また新しい支援策あるいは改善策につなげていきたいと思っています。

それから、白川米については、令和4年からふるさと納税の返礼品としての取扱いを始めています。今回、提言を頂きました SNS を利用するということもとても大事だと思います。SNS を利用して全世界においしい白川米をぜひ知ってもらって、食べていただいて、また買っていただくということにつなげられればいいと思います。またデジタル技術を使いますと、自動化だとか、ドローンを飛ばしてスマート農業、あるいは生育の状況を確認するとか、そういったこともできると思いますので、デジタル技術の活用というのも今後の農業に取り入れていくことが必要なのではないかと思っています。時代の流れに適應して新しい農業の在り方ということ、考える必要があろうかと思っています。

皆さんが白川を良いところですよ、涼しくて空気がきれい、そして地産地消ができますよと思っていただいて、地元を愛している気持ちが大変伝わってくる、いい発表だったと思います。ありがとうございました。

○渡邊議長

ただいまの答弁に対して質問がありましたら、挙手の上、追加質問をお願いします。

○白川小学校

はい。

○渡邊議長

白川小学校。

○白川小学校

農地を守るためには農業者の努力だけでは難しいと思いますが、どう思いますか。

○遠田町長

はい。

○渡邊議長

遠田町長。

○遠田町長

お答えします。農地を守るためには、農業者の努力だけでは難しいのではないかと質問ですが、私も、確かにそれだけではできないと思います。限界があると思います。ですから、例えば等覚寺の棚田の保全には、自動車関連企業の方がボランティアに来ていただいて応援をいただいているとか、農

業体験にサッカーの関連の企業が来ていただくということも行われておりますが、そういったことも考えていく必要があるかと思ひますし、もっと農業をやっている方がこんなことができないかということも、具体的に提言を頂くということが必要だと思ひます。

私たちがこんなことがいいのではないかとということで、新しい農業政策や振興策を考えて、今実施をいくつか、今年度から実施をしているのですが、それでは不十分です。もっとこんなことができないか、農業をやっている方がどうしてほしいのかという提言を頂くことが、行政と実際に農業をやっている方の力を合わせることで、もっと効果的な農業振興策につながるのではないかとと思ひております。皆さんが、農業について真剣に考えていただいていること、感謝申し上げたいと思ひます。ありがとうございます。

○渡邊議長

以上で白川小学校の発表を終わります。

次の発表者、新津中学校をお願いします。

○新津中学校

今から新津中学校の発表を始めます。私たちは総合学習の時間で SDGs について考え、それぞれ一つずつ、項目を決め、発表しました。今日はその中から、SDGs の 16 番の目標である、「平和と公正を全ての人に」について発表します。タイトルは、「虐待のない世界へ」です。では虐待について話していきます。

まず世界の現状についてです。今世界に存在する子供のうち 4 人に 1 人は法的には、存在していません。また 2 人に 1 人は虐待を受けています。その数、何と 10 億人です。中には人身売買に巻き込まれる子供や紛争などに巻き込まれる子どももいます。

次に日本の現状です。虐待には身体的虐待、ネグレクト、性的虐待、心理的虐待の四つの種類があります。私はこれを調べたときにネグレクトという言葉を知らなかったのですが、知らない人、多いのではないのでしょうか。ネグレクトというのは、育児を放棄、怠慢、拒否することです。例えば、御飯を与えなかったり、不潔な状態で放置したり、最近ではスマホに夢中になって子供に構わないスマホネグレクトなんて言葉もあるそうです。このような虐待、日本では、身体的虐待が 23.7%、ネグレクトが 15.1%、性的虐待が 1.1%、心理的虐待は何と 60.1%と 6 割の子供が受けていることが分かりました。このような虐待によって、日本では 1 週間に 1 人の子供が亡くなっています。

では、なぜ虐待が起こってしまうのでしょうか。親の要因、子供の要因、環境の要因の三つの要因があります。まず、親の要因です。育児に不安を抱えていること、親自身に虐待された経験、トラウマがあること、親が病気や障害を抱えていること、精神的に不安定であることが挙げられます。次に子どもの要因です。子供が癩癧を持っていたりなど、育てにくい子供であることや、子供が病気や障害を持っていることなどが挙げられます。次に環境の要因です。育児に関して相談できる人が周りにいないこと、不安定な夫婦関係が続いていること、経済的に不安があること、地域から孤立していることなどが挙げられます。また、その他の要因として望まれていない妊娠だった、しつけのつもりだったということも挙げられます。

現在行われている取り組みは大きく三つです。一つ目は、児童相談所虐待対応ダイヤル「いちはやく」、二つ目は、親子のための相談ラインです。この二つは匿名で相談・通告ができ、秘密は厳守なので虐待の早期発見に役立っています。三つ目は子育て支援サービスです。これは子育てに関する親の不安を解消するサービスで、虐待の発生予防に役立っています。私は今虐待されている子を放置してしまうと、子供が大人になったとき、自分の子供に虐待してしまったり、その子が学校で別の子にいじめをしてしまったり、負の連鎖が起こると考えました。よって、発生予防と早期発見がとても大事になると考えました。

今私たちにできることは、町なかで困っている親子に優しく声をかけることです。皆さん、人が多いところで赤ちゃんが泣きやまず困っている人や、ベビーカーで階段を上れず困っている人、見たことがありますか。このような人たちは孤独や不安でいっぱいなのだそうです。そんな中、私たちが大丈夫ですか、泣いちゃいますよね、お手伝いしますよなど、声をかけるだけでも孤独や不安は安心に変わるのだそうです。

次に苧田町へ二つ提言します。一つ目は、早期発見についてです。私は、学校に通っている全ての子供が心理カウンセラーなどと話す機会をつくってほしいです。これは 1 年に 1 回だけでも、少しの時間

だけでもいいです。こうして会って話すことで、アンケートなどをとるよりもずっと、表情やしぐさ、話し方、声のトーンなどから、小さな SOS でも気づきやすいと考えました。この小さな SOS に気づくことが、早期発見につながる第一歩だと思います。

次に二つ目、これも早期発見についてです。これは福岡県がつくっている虐待防止用のホームページで、虐待について分かりやすく書かれています。私は苅田町もこのような小中学生が見ても分かりやすい、虐待について書かれた子供を守るパンフレットをつくってほしいです。そして、このようなパンフレットを持って出前授業を行い、私たちに大人からされることで、何がいけないことなのか、苅田町が今どのような対策をしているのかを直接教えてほしいです。虐待をされている子どもの中には、自分が虐待をされていると気づいていない子供もいます。私はそんな子供に、あなたは助けを求めるべきなんだよと、気づいてほしい。あなたが助かる方法はあるんだよと知ってほしい。気づいて知ってもらうことで、SOS を出してくれる子供が 1 人でも増えれば、それは早期発見につながると考えました。最後に、今この瞬間にも虐待を受けている子供がいます。私はそんな子供を 1 人でも多く減らしたいです。虐待のない世界を苅田町からつくっていきましょう。発表は以上です。御清聴ありがとうございました。

○渡邊議長

議員の皆さんは席にお戻りください。では執行部に答弁を求めます。

○遠田町長

はい。

○渡邊議長

遠田町長。

○遠田町長

新津中学校の皆さん発表ありがとうございました。皆さんが虐待をテーマにして、問題意識を持って生活をしていることがよく分かりました。負の連鎖が起きないように、そういうことが必要だということが、本当によく分かりました。提言を頂きましたので、そのことについてお答えをしたいと思います。

最初の提言は、早期発見のために、スクールカウンセラーと話をする機会を設けてほしいという提言だったと思います。スクールカウンセラーを現在各小中学校に派遣をして、児童生徒の皆さん、あるいは保護者の方の相談による体制というのは現在できていると思っております。また本年度から皆さんが学校で使っている Chromebook に相談窓口のアイコンを設置しております。様々な相談窓口の電話番号ですとか、QR コードをそのアイコンから検索できますので、いつでもどこからでも、児童生徒の皆さんの SOS をキャッチができるようになっていきます。相談が必要などときには、活用頂きたいと思ひますし、そんなアイコンが Chromebook に入っているということ、ぜひ知っていただきたいと思ひます。

また幼稚園、保育園、小中学校などの各関係機関が連携をして、子供の虐待等を予防するための会議を毎月 1 回開催をしております。その結果で、スクールカウンセラーの面談につなげるなど、虐待が起これないように、あるいは兆しが見えたら、虐待が起これないように、町としても今後も取り組みを進めてまいりたいと思ひます。

それから二つ目の、虐待防止のためのパンフレットをつくってはどうかという提言についてです。現在、県が作成したパンフレットやポスターを町の小中学校、幼稚園、保育園、公民館、病院などに配布をしておりますが、子供たちにとって、分かりやすい苅田町独自のパンフレットをつくることの提言を頂きましたので、検討したいと思ひます。

虐待防止のホームページ「KOMORI」についても、ぜひ町として周知をしたいし、町のホームページも、近いうちにリニューアルをします。そして小中学生の方でも、分かりやすい、見やすいようにホームページに改善をしていきたいと思ひます。虐待とは大変重いテーマだと思います。そういった子供たちをなくしたいという皆さんの思いが、大変伝わってきた、よい発表だったと思ひます。ありがとうございました。

私から、皆さんに、質問させていただきたいと思ひますが、パンフレットを作成したらどうかという提言を頂きましたが、その内容について、例えばこういう内容をぜひ載せて欲しいというようなことがありましたら、聞かせていただきたいと思ひます。

○渡邊議長

今の質問に対し、挙手の上、回答をお願いします。

○新津中学校

はい。

○渡邊議長

新津中学校。

○新津中学校

パンフレットには虐待かと思ったとき、子供に手を出してしまったり、子供に手を出しそうになったりする親、虐待されている子供たちなど、場合別の相談窓口を記載すると思います。また虐待されている自覚がない子供たちが、虐待に気付けるようなチェックリストを載せてほしいと思います。そして、小さい子供も読めるように平仮名を積極的に使うのもいいと思います。

○遠田町長

はい。

○渡邊議長

遠田町長。

○遠田町長

具体的な提言を頂きましたので、そういうことを参考にして、新たなパンフレットの作成を検討してみたいと思います。

今日の子ども議会で、新津中学校が最後の発表だと思いますが、多くの子ども議員の皆さんから沢山の提言を頂きました。私たちも、考えさせられることが沢山ありまして、行政のこれからの運営に、取り入れるということも沢山あるのではないかと感じました。皆さんが勉強していただいたことを、今後行政に生かしていけるように、私たちも努力をしていきたいと思っています。皆さん今日は本当にありがとうございました。

○渡邊議長

以上で新津中学校の発表を終わります。新津中学校の発表をもちまして、本日の議事日程の全てが終了いたしました。円滑な議事進行への御協力ありがとうございました。これをもちまして、令和 5 年度 荇田町 SDGs 子ども議会を閉会いたします。

○企画課企画推進担当 大森係長

議長を務めていただきました新津中学校の森山さん、荇田中学校の渡邊さん、ありがとうございました。最後に、本日の荇田町 SDGs 子ども議会につきまして、荇田町教育長、井上三津子が講評いたします。

○井上教育長

32 名の子ども議員の皆さん、今日は子ども議会での提言、大変お疲れさまでした。また、傍聴にお越しになっていただきました皆様、誠にありがとうございます。会議の終わりにあたりまして、私より講評の言葉を述べさせていただきます。子ども議員の皆さん、今日は議会に参加されていかがだったでしょうか。大変緊張されたのではないのでしょうか。どの学校も、SDGs について、日々の学習で学んだことや、これからの荇田町の SDGs の取り組みについて考えたことや、具体的な提案をしっかりと発表してください、学校での学びの深さを感じることができたとともに、それを町民の皆様にも広く知っていただいたことをとても嬉しく思います。

また、遠田町長との質疑応答のやりとりの中で、皆さんがこれまでに知らなかったこと、気づかなかった荇田町の SDGs の取り組みについて、より理解を深め、自分たちもできることから取り組んでいこうという、実践意欲が高まったのではないかと感じました。皆さんが学ぶ新しい学習指導要領では、何を

学ぶかということだけではなく、学んだことをどのように生かして使うかが、学習の大きな目標になっています。SDGsについて学び、多くの知識を身につけるだけでなく、それを生かして、苅田町のことや、社会全体のことなど、様々な現状を調べ、課題を見つけ出し、その課題を解決するために、こうしたらいいのではないかと自分なりに考えて、このような場で自分の意見を伝えることができた、そして、実践意欲を高めていくことができたということは、大きな学習の成果だと考えています。この経験は、きっとこれからの皆さんの成長の糧になる何事にも代え難い、貴重な体験になったのではないのでしょうか。苅田町の未来を担う子どもたちがしっかりと育っていることをとても嬉しく思いました。

また今日は、これからの苅田町の未来を担う皆さんから様々な提言を頂きました。子どもの視点からの提言をしっかりと受け止め、私たちが熟慮することで、魅力ある苅田町とともに創っていくことができれば幸いだと考えています。私たち一人一人がSDGsを自分事として考え、行動していくことで、苅田町の未来が、きっとより良いものになると信じています。このSDGs子ども議会を機に、より一層、苅田町でSDGsの取り組みの機運が高まり、その取り組みが町民の皆様に広がっていくことを心から願っています。

最後になりますが、子ども議会の開催に当たり、御尽力を頂きました、先生方、並びに保護者の皆様、また関係者の皆様に心より感謝を申し上げ、私からの講評とさせていただきます。子ども議員の皆様の今後の活躍をお祈りしております。本日は誠にありがとうございました。

○企画課企画推進担当 大森係長

以上をもちまして、令和5年度苅田町SDGs子ども議会を終了いたします。お帰りの際は、お忘れ物などないよう気をつけてお帰りください。本日は誠にありがとうございました。